

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

「3,000km」これは、この1年間に自分の足で走った距離です。記録やレースは目指しておらず、休日は散策ランを、平日は夜中にランニングを楽しむのが趣味の1つです。今日は、早起きして札幌から北広島まで延びるサイクリングロードを走破し、恵庭からR36号を通過して帰宅しました。距離にして50km程ですが、長閑な風景を楽しめる区間や職業病とも言うべきか、走りづら

い道路、不親切な案内標識など、多くの発見がありました。同じルートでも時間帯や季節によって別の発見がありますが、札幌中心部の散策でも同じです。こうした感覚は、趣味である野菜作りにも共通しています。野菜の収穫量や味は、土作りと天候がとても大事です。今年は、猛暑と雨不足で地植え野菜の生育は今一つですが、ビニールハウス栽培の野菜は例年通り好調です。それは、水撒きに尽きますが、同じ野菜でも水撒きの時間帯を変えると生育や出来具合に違いが生じることを発見しました。

自分にとって趣味は、「発見を楽しみ、感性を大切にしている時間」だと思っています。もちろん、楽しむことが大前提となるため、楽しめない時はスッと休んで別の事を考えたり、どうにもならない時は楽しみ方を思いっきり変えてみたり、究極は、やめることも選択肢の1つだと考えています。

そんな私も今年で43歳ですが、趣味を通じて得た物事に対する考え方や捉え方、そして感覚といったものは、意外と仕事に役立っているかもしれません。それは、人との出会いに繋がることもあり、そこから新たな発見や進歩が生まれ、結果的には、技術者として自分を高める糧になっているようにも思えます。そう考えると、仕事って趣味の1つなのかもしれませんね。『仕事は楽しまなくっちゃね!』。

大森 洋介 (おおもり ようすけ)

●建設部門(道路)

勤務先

北王設計コンサルタント株式会社



→次号は、工藤 忠さん(建設部門)

生まれの神奈川県横須賀市から、大学進学に伴い北海道帯広市に渡り、そのまま同市で就職、早20年が経ちました。故郷より長い期間を北海道で過ごしていますが、冬の寒さにはまだ慣れておりません。今となっては、なぜ帯広の大学に進学したのかは忘れましたが、誰もやりたがらないという理由から、家畜(特に乳牛)ふん尿を取扱う研究室に入ったことは、記憶の片隅にあります。

ふん尿は、バイオガスプラントによるメタンガス生成と発電、今では水素を取り出し自動車燃料といった、クリーンエネルギーとしての夢があります。しかし普及までの道のりは未だに長く、そうなるとやっぱり廃棄物扱いされそうなこのふん尿を、どうにかして有用な肥料として田畑に還元させることが現実の課題です。この点をいかに解決するか、業務を通じた経験を踏まえ、平成25年に農業部門(農村環境)の技術士試験を受験、合格しました。その後は社会情勢はたまた会社情勢の変化に伴い、農業用水利施設の長寿命化という課題に取り組み、平成30年に農業部門(農業土木)の資格を取得しました。

ここでも、ふん尿処理施設を調査するのですが、想像通りの二オイ(臭い)に慣れることはありません。ただ、アレルギー体質(特に草本類)の私は、牧草の収量調査で発症した後、施設に立寄り、この二オイ(特に微量の硫化水素)を少し嗅ぐと、不思議と症状が和らぎました。硫黄泉と同様の効果かもしれませんが、嗅ぎすぎは注意!硫化水素は大変危険なため、安全な濃度であることを必ず確認することが大事です。今更ですが、如何に健康で事故なく調査を行えるか、改めてその重要性を感じます。書いてみると、あっという間の20年、いや38年に思えてきました。とりとめのない文章、失礼しました。

河原畑 正也 (かわらばた まさや)

●農業部門
(農村環境、農業土木)

勤務先

株式会社ズコーシャ
総合科学研究所



→次号は、塩飽宏輔さん(農業部門)